

CASE 4

第2子の育児休業で上の子のフォロー

氏名：田中 信吾さん(30歳)

勤務先：共同印刷株式会社

お子さん：長女(1歳10か月)、長男(2か月)

▶妻に「是非取って」と言われた育児休業

第2子の生後から18日間育児休業を取得しました。実は、子どもが生まれるまで、育児休業の制度について知りませんでしたし、そもそも自分が育児休業を取るなんて意識にもありませんでした。ちょうど第1子が生まれた直後くらいに、テレビ番組で当社が男性の育児休業を推進しているのを見て、びっくりしたくらいです。妻に「取れるなら是非取って」と言われて、私もどこかで取りたいと考えるようになりました。

育児休業直前に異動があり、異動したばかりの部署で育児休業を取ることにになりました。異動になった時点で、直属の上司には育児休業取得のお願いをして、理解を得ることができました。

育児休業前は、一人で仕事を抱え込まず、他の人と共同で進めるなど、仕事や情報の共有化を意識しました。また連絡のありそうな顧客にはアナウンスして、事情を理解してもらいました。

▶育児休業中は、上の子の世話が中心に

妻は産後すぐに退院できず、私の育児休業中はずっと病院に入院していました。これは予測していたことではなかったので、私が育児休業を取ったことで、上の子の面倒を見ることができ、結果的には幸いしました。

育児休業中の生活パターンは、長女と一緒に朝起きて、朝食を食べさせ、午前中は公園で外遊び。昼食後は、妻の入院している病院に行き、しばらく滞在。家に戻って夕食、お風呂、就寝という毎日でした。

育児休業中は、上の子とずっと一緒に過ごすことができ、本当に楽しかったです。こんな良い時間はなかなかないと思います。今も、早く帰れた日は、子どもたちのお風呂と上の子の寝かし付けは私の役目です。休日も、もっぱら上の子の遊び相手になっています。「ママじゃなきやダメ」ということは全くありません。これは育児休業の成果だと思います。

2人目が生まれた時、上の子が不安定になることを心配しました。私が育児休業を取ったことで、上の子のフォローができたことは大きいと感じています。

▶復帰後、自分がいなくても何の支障もなかったのにショック

育児休業が明けて職場に戻った時は、「あれ？ もう復帰？」というような雰囲気、自分がいなくても何の支障もなく職場が回っていたことに、大変ショックを受けました。新規開拓の部署ですから、新たな気持ちでアポを取ることから仕事を再開しました。会社から必要とされる人間になるよう頑張ろうと心に誓いました。



CASE 5

4人目の子どもの出産で育児休業を取得

氏名：岩淵 知浩さん(33歳)
勤務先：株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ
お子さん：長男(10歳)、長女(7歳)、次女(5歳)、次男(1歳)

▶「育児休業がとれない職場なら、異動しません」

妻が4人目を妊娠したことがわかったとき、出産直後の妻が一人で3人の子どもの面倒を見ながら、新たに生まれる赤ちゃんの世話をするのは無理だろうという判断から、育児休業取得を決意しました。妻の出産後8週間育児休業を取得しました。

妊娠がわかった時点で、上司に育児休業取得の希望を伝えました。4月の人事異動を控えていて、その対象になることがわかっていたので、「育児休業が取れない職場なら、異動しません」と、育児休業取得を前提とした異動をお願いしました。上司は、事情をよく理解してくれて、すんなり「OK」してくれました。

異動先の歓迎会の時に「育児休業を取得します」と宣言し、周りの人たちは、むしろ「がんばって」と後押ししてくれる雰囲気がありました。

▶育児休業中は、同僚2人が3人分の仕事をこなしてくれた

育児休業取得当時は、3人のチームで仕事をしていました。休業中は他の2人が3人分の仕事をこなしてくれました。仕事が深夜におよぶことも多い職場だったので、当時の同僚2人には、頭が上がりません。

育児休業中は、メールのやりとりはCCで同送してもらおうようにし、携帯でチェックしていました。社内ネットワークで職場メンバーのスケジュールも確認し、皆がだいたいどのような動きをしているか把握するようにしました。そのため、復帰後も楽でした。

▶育児休業中は、上の3人の子の世話と家事を全部こなす

8週間の育児休業中は、主に上の3人の子の世話と家事を全部こなしました。ゆっくり新聞や本を読んだりすることもできませんでした。いつもクタクタになって、倒れ込むように寝るといった感じでした。

長男は、学校から帰ってきてパパがいるというのは、本当に嬉しかったようです。幼稚園児の2人の娘も、パパと手をつないで幼稚園に通った8週間、大はしゃぎでした。私も、娘2人と手をつないで歩く道すがら、人間らしい何かを取り戻した気がしました。

また、家事・育児を一人でこなすことの大変さを実感しました。それまでは、妻に対して「家にいるのだから、それくらいやって当たり前」という気持ちがありましたが、今はもうそんなことは思っていない。妻に優しくなれるようになりました。

▶どんな教育研修よりも実践型スキルを身に付けることができる

育児は、マルチタスクです。複数の処理を同時に行わなければならないことがとても多いのです。瞬時の判断力と処理能力が求められます。

育児はどんな教育研修よりも、実践的なスキルを身に付けることができるように思いました。私も、「柔軟な発想力」「臨機応変な対応力」「許容力」「マルチタスクの処理能力」などが養われたように思います。